Bーぐる沿線協議会ニュース

第31号

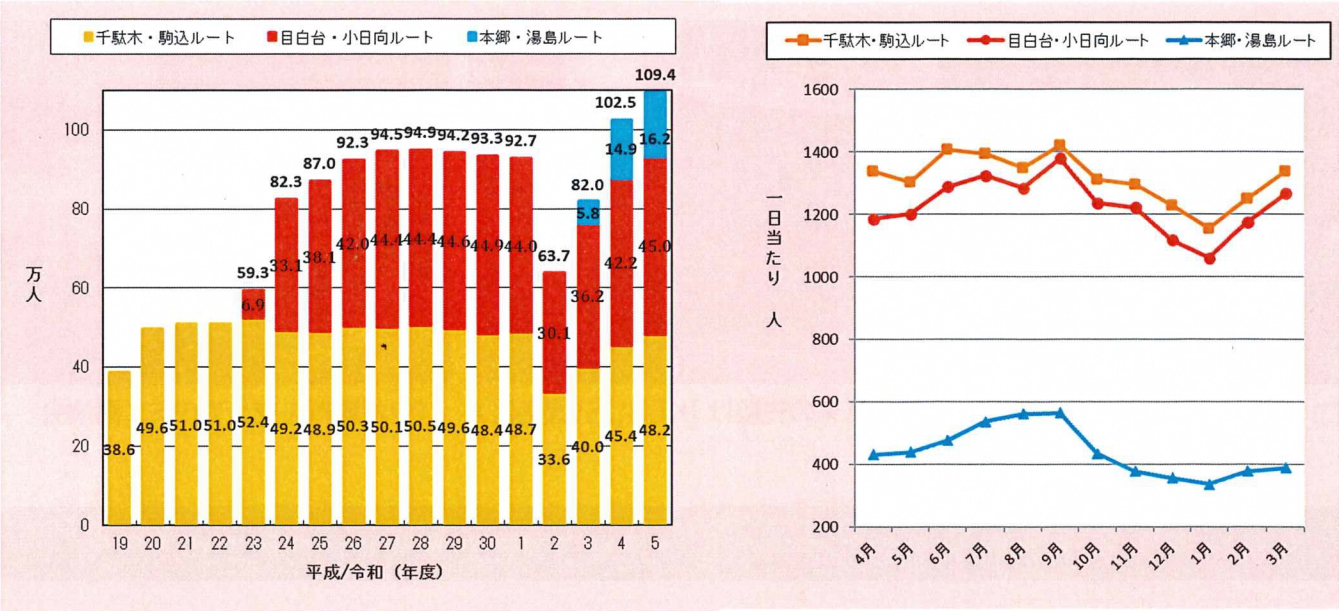
令和６年１１月発行　Bーぐる沿線協議会事務局　区民課庶務係コミュニティバス担当　03-5803-1387

令和６年７月30日に沿線協議会が開催され、令和５年度のBーぐるの利用状況と決算報告、また利便性向上の取組の説明や都内コミュニティバスの最新動向の報告があり、活発な意見交換が行われました。

３路線で合計109万人　コロナ前に迫る回復

はじめに事務局から、令和５年度のBーぐる乗車人数に関して、千駄木・駒込ルートが481,665人、目白台・小日向ルートが449,676人、本郷・湯島ルートが161,601人、合計で1,092,942人との報告がありました。新型コロナウィルスの影響による行動制限の緩和等により、１日あたり千駄木・駒込ルートが72人の増加、目白台・小日向ルートが74人の増加、本郷・湯島ルートは減便ダイヤでの運行によって11月以降は前年に比べて減少していますが、年間を通しては33人の増加と３ルートとも前年度から増加し、コロナ前（令和元年度）の水準に迫る回復となりました。区では今年度も区内のイベント等を通じてBーぐるの周知と利用促進に向けた情報提供等の対策を進めていくとのことです。

Bーぐるの乗車実績の推移(左)と月別乗車実績(令和５年度)



路線の効率性と公共性の両立に向けた協議が重要に

続く令和５年度決算報告では、日立自動車交通の關田委員から、３ルートとも営業収入が若干だが伸び、経費も顕著な増減はなく順調で、もっとたくさんの方に利用していただければとの発言がありました。

各委員からは次年度への課題に関して質問があり、關田委員は運賃が100円ということもあり、どうしても区の補助金頼みの側面があり、ドライバー不足への対策も非常に大きな課題で、今後も区といろいろ話していければと回答しました。

利用が少ない時間帯は走らせない等、効率的な運行に関する意見に対し、区民課長の榎戸委員からは、交通不便地域を走る路線である以上、運行の見直しについては利用の少ない時間帯の乗車人数の実績等から需要を見極めたうえで検討すると回答しました。

３ヶ月定期券の発売や乗継バス停の改善を予定

事務局からＢーぐる利便性向上の取組の報告がありました。１つ目は定期券の複数月購入で、「定期券が１ヶ月ごとしか購入できず不便」との声に対応したもので、月数は３ヶ月を検討中とのことです。

２つ目は無料乗継停留所の改定です。文京シビックセンター（春日駅前）における乗り継ぎについて、新たに乗り継ぎできる停留所を増やしたり、回送運行による乗り継ぎ分はカウントしないようにするなどの検討案が説明され、令和７年４月からの実施を予定しています。

今後は紙ベースの定期券からスマホを使ったデジタルでの販売も検討しているそうです。

次世代に向けたＢーぐるの検討を

元田会長よりコミュニティバスの最新動向に関する報告がありました。コミュニティバスは 1995 年に運行を始めた武蔵野市のムーバスが原型となり、全国に普及しました。現在も 100 円均一の運賃が多いですが、高齢者割引やシルバーパスなどの各種割引を導入したり、大型バスの運行、双方向路線等、コミュニティバスの運営も多様化しています。電気バスも現在 11 区で導入が進んでおり、文京区でも時代の変化に合わせたＢーぐるの検討を進める時期に来ているように感じるとのことでした。

その後委員から文京区として今後のＢーぐるの見通しについて質問があり、事務局は現状の３路線の維持と継続に努めていきたいと述べました。

元祖コミバス　ムーバス(武蔵野市)

電気バスの先駆け IKEBUS(豊島区)

パワポ資料を交えてのミニ講演会

Ｂーぐる友の会によるＰＲ活動も活発化

Ｂーぐる友の会の飯森委員から、令和６年度の活動が報告されました。Ｂーぐる車内で流れるＢーぐるチャンネルの番組では、各路線沿線の保育園に協力してもらい、園児たちのぬり絵作品を発表する「車内展覧会」を上映しています。

６月 15 日に白山神社あじさい祭りでＢーぐるのぬり絵や沿線情報誌 beople を配布しました。また今年は 10 月５日に洗車ツアーを復活開催しました。

こうした活動を通じてＢーぐるの知名度をもっと広げていければと述べました。

編集後記

元田会長の発表に登場した豊島区の IKEBUS はエコで見た目もカッコイイ。次世代Ｂーぐるが EV 化されて登場するのを心待ちにしています。(N)